

平成24年度 私立学校職能別実務者研修会 私学の教育課程と学習指導要領（東日本）研修会 実施報告

本年度の私立学校職能別実務者研修会 私学の教育課程と学習指導要領（東日本）研修会が、平成24年11月10日（土）の1日日程で、東京都新宿区の飯田橋レインボービルで開催され108人の参加があった。

今回の研修会は、「新しい学習指導要領に対応した評価の在り方」と、「新しい学習指導要領に対応した英語の授業」の2つのテーマを取り上げ、前者をAコース、後者をBコースとして、コース別に実施した。

Aコース「新しい学習指導要領に対応した評価の在り方」

今、学校における評価の意義と活用の再認識が重要な課題となっている。観点別学習状況評価や目標準拠評価など、多様な視点から評価の問題と課題を考え、確かな学力を育てる実践につながる理論と実践が求められている。そこで、文部科学省第5期中央教育審議会の副会長として「児童生徒の評価の在り方について報告書」および「児童生徒指導要録」をまとめた、奈良学園法人本部常務理事である梶田叡一氏による「確かな学力の育成と評価のあり方」の講演が行われた。



その後、当研究所の山路進主任研究員より、「新しい学力観に対応した評価を考える」と題する講演へと続き、私立学校における評価を考察した。

また、研究協議として「私立学校における評価の考え方と実践」をテーマに、協議および情報交換を行った。

Bコース「新しい学習指導要領に対応した英語の授業」

新学習指導要領には「授業は英語で行うことを基本とする」と記述され、高等学校での英語教育は来年度から大きく変化することになった。一方、昨年示された文科省の提言「国際共通語としての英語力向上のための5つの提言と具体的施策」では、生徒の英語力向上と共に教員の資質向上にも触れられており、英語教育は大きな変革の時代を迎えている。



本コースでは、講演と共に具体的な「英語による授業」の実践演習を通して、現場ではこの大きな変革にどう対応していくかを研修した。

まず、上智大学外国語学部教授の和泉伸一氏による英語での講演「子どもはどうやって言葉を学習するのか」で、言語学習の重要性を学んだ。

午後からは、和泉氏によるワークショップ「Teacher Talk: Theory and Practice」では、より実践的な研修がなされた。

その後、British Council の河合千尋氏による英語での講演「世界の教員を結ぶサイトの紹介」では、インターネットによって世界とつながっている教育現場を実感することができた。

また、研究協議として「英語による英語の授業」をテーマに、協議および情報交換を行った。